

カタツムリの住む街づくり

みなさんは、最近カタツムリを見かけますか？

今の子供たちは、カタツムリを実際に見たことがあるでしょうか。

実際私もカタツムリが自然に歩いているのを見たのは数える程しかありません。でも、小さい頃雨が降るといつも母が「でんでんむしむしカタツムリ～」とよく歌ってくれたので、とても親しみのある虫でした。母に聞くと、母が子供の頃は、梅雨時になるとどんな植物を見ても一匹は見つかるくらい、雨には付き物の風物詩だったそうです。

そんなカタツムリがどうして、いつからこんなに少なくなってしまったのでしょうか？調べてみて、いくつかの原因が分かってきました。

そもそもカタツムリは乾燥に弱いので、ある程度の湿度があるところに生息しているそうです。しかし耕作地を目的とした森林伐採や、建築用材・製紙を目的とした森林伐採によって木が減り、道路が作られることにより水分が減り乾燥していくことにより、カタツムリの生息できるところが少なくなり、減少してきたということです。又、さらにカタツムリは殻を背負っているため、すぐ逃げられなく、とても環境の変化に弱いそうです。そのため、都市化が進み、庭や農地の減少などの環境変化もカタツムリが減っていつている原因となっているということです。

結局、これは人間が何も考えずに自分たちの便利さを優先した環境破壊のために起こったことだと知り、同じ人間としてショックを受けました。私たち人間は、自分たちのことだけを考えて行動していいのでしょうか？これは、カタツムリだけの問題ではありません。こんなこと続けているとほかの様々な動植物にも影響が及ぶことは簡単に考えることができます。

では、これから私たちはどのように共存していけばいいのでしょうか？

1.水分の多い道路作り

まず一つの場合としては、道路の素材の変更です。

水をはじくアスファルトではなく土に似た、コルクのような水を吸い込む素材

で道路を作ります。そうすることで乾燥がなくなり、道路脇の植物も育ちやすくなります。

又、これにより最近多いゲリラ豪雨などの現象にも水を吸い込むことによって、川の決壊や住宅の浸水などを防ぐことになり、一石二鳥であると思います。

2. 樹木を増やす

一軒家に住む人は、塀や、フェンスを木に変えるなどして、庭に木を植えることを義務付けます。

又、マンションやオフィスなどのビルの屋上で木などを植えられるような素材を使用し、樹木を植えます。

こうした対策をすることによって、緑が少なかった都市にも随分自然が増えることになります。もちろん、この木々たちも考えなしに植えるのではなく、昆虫の生息を考えた上で、必要な木々の種類を満遍なく植える必要があります。そのため、国全体を見据えて植栽を指示する機関を作るべきだと思います。